日本大学大学院総合社会情報研究科紀要　No.9, 349-360 (2008)

ありのままに語ること
―公民権運動時のアフリカ系アメリカ人の語りにみる ラップ・ミュージックの起源―

斉藤　千絵
日本大学大学院総合社会情報研究科

Telling It Like It Is
―The Origins of Rap Music in the Black Vernacular of the 1960s―

SAITO Chie
Nihon University, Graduate School of Social and Cultural Studies

In the 1960s, “to rap” meant to speak seriously and at length on a subject, to tell the truth about it. And for African Americans, “invisible” men and women, rap was a way of breaking the silence concerning the crimes of slavery in the 19th century and the small progress that had been made one hundred years after “emancipation.” Rap was emotional, rhythmical, and confrontational. It became a highly rhetorical way of speaking and eventually a kind of performance art, as protests were increasingly being videotaped and shown on television. Although there has been a question as to whether rap music has kept the idealistic bent of the 1960s rhetoric because the music of the 1990s was so openly materialistic, I believe that rap music finds its origins in the 1960s. Especially the central urge to tell the truth, to “tell it like it is,” with the inevitable answer back of “yes,” seems to be a common point.

1. 序

Martin Luther King, Jr.（マーチン・ルーサー・キング・ジュニア）暗殺から 40 年を経て、2008 年 11 月 4 日アメリカ合衆国史上初のアフリカ系アメリカ人大統領が選出された。Barack Hussein Obama, Jr. (バラク・フセイン・オバマ・ジュニア)氏である。当選に至るまでの、高い評価を得た数々のスピーチは、公民権運動時の活動家さながら、よりよい社会への変化を訴え、市民を代弁し、聴衆の心を捉え、実行されることを意図した語りであった。それは、ラップ・ミュージックの試みそのものであった。

ラッパー、Ludacris の 2007 年グラミー賞受賞アルバム *Release Therapy* に、“Tell It Like It Is” という曲がある。本論文では、ラップ・ミュージックの「ありのままに語ること」の意義を考察し、その起源が 60 年代の公民権運動にあることを論証する。その作業にあたり、発話により物事が実行されるというパフォーマティヴ論を用いる。さらに、Judith Butler（ジュディス・バトラー）の、差別用語の意味の転換に関する見解もラップ・ミュージックの詩句の解釈に応用した。Gayatri C. Spivak（ガヤトリ・C・スピヴァク）は非西洋文化に対する政治的･軍事的暴力を正当化してきた歴史をあぶりだすことを試みてきたが(37)、こうしたスピヴァクの認識論的暴力という考え方を借りて、60 年代公民権運動の革命家の代表的語りと 70 年代以降のラップ･ミュージックの詩句を分析し、比較考察を行う。アメリカにおける人種差別問題は解決されないまま現在にまで持ち越されているが、それを「ありのまま」に「語る」ことにラップ・ミュージックの文化・社会貢献がある。反社会的側面が批判にさらされるラップ・ミュージックだが、その本質的意義を提示し、60 年代アメリカの公民権運動の精神がラップ・ミュージックに継承されていることを確認する。

2. ラップ･ミュージックのルーツ

rap（ラップ）は、*Merriam Webster* によると、14 世紀には“to criticize sharply”、1967 年には “a rhythmic chanting often in unison of usually rhymed couplets to a musical accompaniment”と定義されている。音楽の要素は後にラップに加わったものであると解釈すると、「厳しく批判する」ことがラップの原義であり、ラップ・ミュージックの本質であると考えられる。

その語りを歴史的に辿ると、400 年前のアフリカに遡ることができる。奴隷の捕獲と拉致が特に頻繁に行われた西アフリカのグリオの語りの文化が、アフリカ系アメリカ人の語りの文化に継承されていることは容易に推測できる。K. Maurice Jones 著 *Say It Loud! The Story of Rap Music* によると、グリオは、歴史や時事を語りにより、ときに音楽に載せて各地に伝達し、市民の考えを支配者に知らせる役割もあったという(19)。音楽に載せて社会の真相を語り、人々の思いを代弁する現代のラッパーとの共通点が浮かび上がる。

400 年に及ぶ奴隷制の中で育まれ、発展していった、アフリカ系アメリカ人の語りには次のようなものがある。言葉遊びには、藤田正によると、一種の叙事詩の中に、風刺、揚げ足取り、嘘などを盛り込んで一人芝居風に語る “toasting”、アイ・コンタクト、ボディ・ランゲージも含み、婉曲表現の最も顕著な “signifying”、侮辱を込めた言い方 “sounding”、それが攻撃的になった “dozen”である。また、jazz (ジャズ)の一種、jive は、英語を違った単語に置き換えたり、早くわかりにくく話す特殊な会話、言語体系、あるいはその音の響きを示すという (21-23) 。ジャズ、blues の詩にみられる語りもその一つといえる。これらは音楽と結合し、韻を踏み、議論を展開するラップ・ミュージックへと発展していく過程と捉えることができる。

また、キング牧師を含む歴代のバプティスト教会牧師の説教にみられる語りの特徴もラップ・ミュージックと深く関連している。牧師の呼びかけに、声をあげて返答する “call and response”、本当の意味を含ませながら、白人には判らないような婉曲表現 double meanings は、仲間意識を育む術として、ラップ・ミュージックに継承されている。

すなわち、奴隷制度の中で継承されてきたアフリカの語りは隠蔽されてきた真実の表面化から、奴隷制批判、そして、公民権獲得のためのラップに発展した。ラップは音楽と出会い、70 年代以降、ラップ・ミュージックへと発展したのである。

3. 公民権運動活動家の代表的な語り

以下、今日のラップ･ミュージックに最も影響を与えたと考えられる、代表的な公民権運動活動家、H. Rap Brown（H. ラップ・ブラウン）[1]、Malcolm X (マルコムX)、Martin Luther King, Jr.（キング牧師）、Muhammad Ali (モハメド・アリ)の語りを検証し、ラップ・ミュージックの正統な特質を確認する。

3.1 H. ラップ・ブラウン―ラップの体現者

ブラウンは、1960 年代の公民権運動時の弁論家の一人であり、ダズンの達人であったことからラップと呼ばれるようになったという（Brown 26, 27）。ブラウンの志す革命は、アフリカの植民地化に始まり、奴隷制度など、白人のために正当化されてきた、誤った社会制度、認識論的暴力に対して異議を申し立て、白人優位の制度を解体し、人間としての権利と自由を得ることであった。また、白人的価値観に感化されてしまったアフリカ系アメリカ人に、意識の改革を要求するものであった。ブラウンは、白人至上主義社会で自ら心理的奴隷であり続けているアフリカ系アメリカ人をニグロと呼び、過激で攻撃的な語りで彼らを容赦なく批判した。

以下、ブラウンのスピーチからの引用。

> There was the town called Motown;
> Now it ain’t no town.
> They used to call it Detroit,
> Now they call it Destroyed. (Brown 134)

ここでみられる韻を踏んだ対句の形式、社会事件[2]、

[1]本名、またイスラム教改宗後の名前は用いず、H. Rap Brown の名前で統一した。

[2] 1967 年 7 月 23 日の 12th Street Riot。勃発地、デトロイトでのスピーチ。

白人至上主義への批判の他、ブラウンのスピーチにみられる名指しでの批判、仲間同士の批判、暴力の肯定はラップ・ミュージックの特徴でもある。

2008 年現在、ブラウンは無実を主張しながら獄中生活を余儀なくされているが、彼の釈放を呼びかけるラッパーも存在し、ラッパーへの多大な影響を見ることができる。

3.2 マルコムX—武器は「ありのままに語ること」

60 年代公民権運動時の「物言う革命家」マルコムXが、後代の「物言う革命家」ラッパーに最も強い影響を与えたということは広く認識されている。

> in the late eighties and the early nineties, his legacy was resuscitated, largely by members of the hip-hop generation or whom he was a cult hero. (*The African American Century* 256)

マルコムXはアフリカ系アメリカ人としての生きることの苦悩を、身をもって理解していため、60 年代当時、ゲットーに住むアフリカ系アメリカ人に広く支持され、信頼されていた。彼の語りは簡潔で、容易に復唱できたことも、その要因の一つと考えられ、率直な主張と簡潔な表現からなる芸術的な語りは、人々の記憶に強く残った。マルコムX自身、自伝の随所で「真実を語る」ことを継続してきたことについて述べている。白人が重ねてきたアフリカ系アメリカ人に対する犯罪行為をありのままに語ったため、そのことが白人に敵対心を抱かせる原因にもなった。

> when you spend your dollar
> out of the community in which you live,
> the community in which you spend your money
> becomes richer and richer;
> the community out which you take your money
> becomes poorer and poorer.
> （中略）
> and spend it with The Man,
> The Man is becoming richer and richer,
> and you're becoming poorer and poorer.
> And then what happens?
> The community in which you live
> becomes a slum.
> It becomes a ghetto.
> （中略）
> This government has failed us;
> the government itself has failed us,
> and the white liberals who have been posing
> as our friends have failed us （"The Ballot or Bullet")

マルコムXは、アフリカ系アメリカ人が置かれた状況、苦悩をありのままに語ることで、白人優位社会アメリカを弾劾し、自立を説いた。「ありのままに語ること」を武器に戦ったと言えよう。

3.3 キング牧師—心を動かし体制を変える主張

ガンディの非暴力論に賛同し、それはキリストの愛と同類であると解釈していたキング牧師は、言葉で人々の心を揺さぶり、行動で人々を動員し、変化をもたらした。

キング牧師は、並外れた洞察力で、善意ある白人市民の表層的な理解こそが問題であると指摘した。彼を陥れた悪意ある白人非難ではなく、一般の白人市民意識に根付いた白人優越主義的心理を突いたのである。

> "Shallow understanding from people of good will is more frustrating than absolute misunderstanding from people of ill will." (Letter From Birmingham Jail 83)

"people of good/ill will"という句を対照させることで明確な主張となっている。

彼のスピーチは実行を伴うもの、すなわちパフォーマティヴな言語、"an active, world-making use of language"であった (Culler 96)。また、公民権運動を導いた語りは後の、例えば、Cornel West (コーネル・ウェスト)のラップ・ミュージックの詩に近似する。

> We are on the move now.
> The burning of our churches will not deter us.

We are on the move now.
The bombing of our homes will not dissuade us.
We are on the move now.
The beating and killing of our clergymen
and young people will not divert us.
We are on the move now.
The arrest and release of known murderers
will not discourage us.
We are on the move now. ("Eulogy for the Martyred Children" 122)

アフリカ系アメリカ人の厳しい現状と、それに負けない姿勢を対比した対句、"d"で始まる動詞による統一、押韻、強いメッセージ性は、ラップ・ミュージックに継承されていると言える。

3.4 モハメド・アリ—パフォーマティヴな語り

モハメド・アリ、本名 Cassius Marcellus Clay, Jr. は、その発言とともにラップ・ミュージックの主題として頻繁に取り上げられ、「言っていることは正しい」、「ラッパーのチャンピオン」など、その考えや生き方が賞賛されている。アリは、ボクシング、反戦、公民権運動、パーキンソン病など、戦い続けてきた。そこには常にアリの語りがあった。彼は予言通り勝利することで有名であったが、その予言は詩的であった。

Moore will
hit the floor
in round four (Bockris 29)

これは 962 年、Archie Moore 戦に先立っての予言だが、その通り、4 ラウンドで KO 勝ちとなった。

アリは "The Prophet Muhammad"さながら、"like a prophet of the ring" (Gates Jr. 233)と形容された。付き人、Bundini Brown も "he's a prophet"（Bockris 53）と述べ、ラッパー、DMC は、アリの予言を "the most famous rap lyric ever" (Light 10)としている。

アリは積極的に反戦を唱え、ベトナム戦争の徴兵召集を拒絶した。そのため、ライセンスを剥奪され、4 年間、ボクシング禁止処分となった。次の詩は、アリの反戦メッセージである。

Because it's better in jail
Watchin' television fed
Than in Vietnam somewhere dead. (Bockris 41)

また、アリは白人アメリカ社会を批判し、他の公民権運動活動家同様、白人のアメリカを解体し、平等な社会を構築しようと試みた。アリはそれらの功績を称えられ、ドイツの平和賞であるオットー・ハーン平和メダル、アメリカ合衆国自由勲章を授与されている。後のラッパーを含め、アリが世界中の人々に与えた影響は計り知れない。

映画 *When We Were Kings* の中で、アリは即興で次のように語っている。

Only last week
I murdered a rock,
injured the stone,
hospitalized a brick.
I'm so mean I make medicine sick. (Bockris 15)

New Yorker の映画評論家 Anthony Lane は、これを聞いて "So now we know. Among his many other accomplishments, Muhammad Ali invented rap." (Bockris 15)と言っている。アリの語りがラップそのものであることを示すコメントである。

ここまで、ラップ・ミュージックの発祥に至るまでの背景を、アフリカのグリオの伝統から、60 年代公民権運動の代表的な活動家の語りを中心に検証した。アフリカ系アメリカ人の語りを歴史に沿って紐解くと、アフリカ文化が遺伝子に組み込まれていること、それが、60 年代の公民権運動時の語りにも色濃く反映され、さらに、今日のラップ・ミュージックの中核をなしていることが見えてくる。

4. ラップ・ミュージックの考察

ラップ・ミュージックの詩句を検証し、60 年代公民権運動活動家の影響を確認する。ラップ・ミュージックにおいては、暴力的、差別的、実利主義的な要素が問題視されるが、筆者は、その歌詞に込めら

れた真実を読み解くことに意義があると考える。60年代、公民権運動活動は白人のアメリカの欺瞞を暴いてみせた。その精神を継承するのがラップ・ミュージックである。

4.1 ラップ・ミュージック誕生

1964 年の公民権法制定により人種差別は法律上撤廃された。1968 年、キング牧師暗殺後、ベトナム戦争の泥沼化とともに公民権運動は終息し、敗戦後まで人種差別問題は持ち越された。こうした状況にあって、放置され、荒廃した街の一つがニューヨーク、サウス・ブロンクスであった。そこでラップ・ミュージックは誕生した。

DJ (Disc Jockey)は、街中、公園でのパーティ、ブロック・パーティで音楽をかけ、後にラッパーと呼ばれるに至る MC (Master of Ceremony)とパーティを盛り上げた。最初の DJ、DJ Kool Herc はジャマイカからの移民である。地元のブロック・パーティで、DJ は音楽、MC はラップにより、それぞれの技術を競い、磨き合うようになり、人々に楽しみを提供した。それがラップ・ミュージックの誕生である。

陽気な、パーティ向きのものに続き、絶望的なアフリカ系アメリカ人の暮らしの現状を訴えるラップ・ミュージックが登場した。Grandmaster Flash and the Furious Five の “The Message” は、劣悪な居住環境、社会制度の悪循環に陥り、閉塞状況にある女性や子供、敗残者としての黒人男性を語っている。

You say Im cool, Im no fool
But then you wind up dropping out of high school
Now youre unemployed, all null n void
Walking aroun like youre pretty boy floyd
Turned stickup kid, look what you done did
Got send up for a eight year bid
Now your man is took and youre a may tag
Spend the next two years as an undercover fag
Being used and abused, and served like a hell
Till one day you was find hung dead in a cell
It was plain to see that your life was lost
You was cold and your body swung back and forth
And your eyes sing the sad sad song
Of how you lived so fast and died so young
<http://www.lyricsfreak.com/g/grandmaster+flash/The+message_20062225.html>

見棄てられた自分たちの悲惨な現状を「ありのままに」描出している。70 年代、そして 80 年代になっても、アフリカ系アメリカ人は、周縁に追いやられ、存在を否定されたままであった。「メッセージ」というタイトルは、自分たちの孤立した世界から外部社会への発信であること、受信者へ「議論」を持ちかけていることを示唆している。反応は大きかった。世間は耳を傾け、心で感じ、考え始めた。「メッセージ」は、パフォーマティヴな言語として機能し、存在を否定された者たちの他者化された境遇を、肯定的に主体的なものへと変換させたのである。60 年代の公民権運動の精神を受け継ぎ、言葉で主張する意義を知るラッパーは、ありのままに語る精神を音楽に盛り込み、世間に発信した。白人の優位性を維持するために必要とされたアフリカ系アメリカ人としての被支配的な地位は、法的に平等となった現在、アメリカ社会の中で、どのよう位置づけられているのか、という疑問を投げかけた。公民権運動後のアフリカ系アメリカ人社会、またベトナム戦争後の荒廃したアメリカ社会の実相を表面化させたのである。

また、地域に貢献するリーダー的ラッパーも登場した。アフリカ系アメリカ人同士を滅ぼしあう麻薬の連鎖を断ち切ることをラッパーが試みたのだ。麻薬を拒否することで自分たち一人一人ができる革命を呼びかけた。以下、Afrika Bambaataa(アフリカ・バンバータ)の“*The Renegades Of Funk*”からの引用。

Since the Prehistoric ages
and the days of ancient Greece
Right down through the Middle Ages
Planet earth kept going through changes
And then no renaissance came,
and times continued to change
Nothing stayed the same,
but there were always renegades
Like Chief Sitting Bull, Tom Paine
Dr. Martin Luther King, Malcolm X

They were renegades of their time and age
So many renegades
We're the renegades of funk
（中略）
Destroy our nations
（中略）
Now renegades are the people with their own philosophies
They change the course of history
Everyday people like you and me
We're the renegades we're the people
With our own philosophies
We change the course of history
Everyday people like you and me
<http://www.ratm.net/lyrics/renegades/ren.html>

バンバータは、キング牧師、マルコム X など、社会体制に戦いを挑んだ先達たちの名を挙げ、我々も反逆者だ、と呼びかけ、我々は音楽という力を授かり、それによって果たすべく任務があると語る。「国家を壊せ」と、誤った体制の解体を呼びかけ、マルコム X が唱えていた「自分自身の哲学」という句を引用し、歴史の方向を変え、歴史は自分たちで作ることができることを教導するパフォーマティヴな言語とした。

このように、初期の DJ、MC たちは、貧困地区での生活の中で、公民権運動の精神、夢を継承し、コミュニティの平和、安全の維持に貢献していた。

4. 2 ラップ・ミュージックのメジャー化

80 年代、レーガノミクスの時代、アフリカ系アメリカ人の生活は益々抑圧され、麻薬蔓延、経済破綻からニューヨークを再建しようと Beame 市長は奮闘する。そのような時代に、後にヒップ・ホップ音楽のレーベル、Def Jam Recordings 成功の貢献に至る Russell Simmons は、1979 年、Kurtis Blow（カーティス・ブロウ）の史上初のラップ・ミュージックのメジャー・レーベル契約を実現させた。以下、ブロウの “If I Ruled The World”から。

If I ruled the world, was king on the throne
I'd make peace in every culture,
build the homeless a home
(中略)
Now I'm the KING, and I want you to know
that I'm the Master Blaster Rapper
who's runnin the show
And to all of you rappers in every country
you better stop what you're doin, and listen to me
Cause we gotta stop war, and use unity
to fight crime and hunger and poverty
Cause the African baby is dyin overseas
while you sucker mission politicians bustin out Z's
Huh, twenty million people all unemployed
（中略）
Cause I know, the solution, is the contribution
of woman and man to just join the revolution
that'll take your brain to a higher plane
and help you deal in a world that's gone insane
with the problems that I know we can stop
from the ruler of the world and the man on top
<http://www.lyricsfreak.com/k/kurtis+blow/if+i+ruled+the+world_20199115.html>

“if”による仮定から始まるこの夢物語は、社会制度と政治家を痛烈に批判し、解決法まで提案する。更に視聴者の賛同を得、心を捉え、意識を導いていくと、次第に夢物語を超えていく。ラップの詩は夢物語通りに遂行されようとする。“I Have a Dream.”に限らず、スピーチは真実であっても、夢が叶っていない時点では仮定であるが、そこに込められた強い願望が、現実化に向かって人々を動かす力の源となり、パフォーマティヴな言語となる。それが 60 年代の弁論家たちの意図したところであり、ラッパーに受け継がれた精神なのである。その精神は、語りの力で人々の意識を変え、行く行くは宣言通りに現実化の方向へ社会の常識や情勢を変換させていく。

またブロウは、その夢物語を「キング」に語らせている。ステージで語り、聴衆の心に訴えかけるキングと言えば、本来はキング牧師である。ブロウは自らをキングと設定することにより、市民の王とし

てのキングと、キング牧師という二重の意味を成立させている。ステージでラップをするキング（ブロウ）は、市民を導く本当の王、そして真実と権利を訴え、変化をもたらすキング牧師なのである。

4.3 ラップ・ミュージックのヴィジュアル化

80 年代初頭、新曲がリリースされると、そのプロモーションのため、「ミュージック・ビデオ」[3] が製作され、テレビ放送されるようになった。ミージック・ビデオ専門のチャンネル MTV が登場し、ラップ・ミュージックも商業化、実利主義化へ方向転換し始める。Aerosmith のロック・ミュージックの同名曲をサンプリングした Run DMC(ラン DMC)の "Walk This Way" は、初めて MTV にオン・エアされたラップ・ミュージックのミュージック・ビデオで、一般受けした。白人ラッパーBeastie Boys、大学卒、中流階級出身のラッパー、ラン DMC の登場など、ラップ・ミュージックは多種多様化し、一般視聴者に徐々に受け入れられていった。

次はラン DMC の"Proud To Be Black" からの引用。

> DJ Run, and I run these things
> You can hear it loud and clear like when the schoolbell rings
> Like Martin Luther King, I will do my thing
> I'll say it in a rap cause I do not sing
> D.M.C., the man, that's causin the beef [4]
> I got a message for the world so listen up it's brief
> Like Malcolm X said I won't turn the right cheek
> Got the strength to go the length, if you wanna start beef.　Start beef!
> （中略）
> The world's full of hate discrimination and sin
> People judgin other people by the color of skin
> I'll attack this matter, in my own way
> Man, I ain't no slave, I ain't reelin no hay
> （中略）
> Showed any man with a mind, could create
> You read about Malcolm X - in the history text
> Jesse Owens[5] broke records, Ali[6] broke necks
> What's wrong with ya man?
> How can you be so dumb?
> LIKE DR. KING SAID, WE SHALL OVERCOME !　<http://lyricwiki.org/Run -D.M.C.:Proud_To_Be_Black">

キング牧師のように語り、マルコム X のように語りで戦う、と言い、二人の公民権運動活動家と、ラン DMC の語りの本質は同じであることを示している。ラップ・ミュージックが一般化し始める中、ラン DMC は、キング牧師やマルコム X の試み同様、脱奴隷、アイデンティティの奪回を呼びかけ、主体的に声をあげる重要性を訴え続けた。ラン DMC は、語りがパフォーマティヴとなることを、公民権運動活動家の語りから学び、認識しているため、パフォーマティヴな力を持つ彼らの語りを引用し、詩に同様の力を持たせていると考えられる。

アメリカでは、人種差別意識という心理的奴隷制度が根強く残っている。奴隷制度は、マルコム X が指摘したように国際問題である。2000 年代になっても、世界中に存在する「奴隷」の人数は 2700 万人に及び、(*50 Facts That Should Change the World* 222) 信念を語っただけで拘留された人々を含む、無実の「囚人」の数は世界で 30 万人に上る (Williams 190) 。ありのままに語ることで犯罪者になりうる社会がある中で、姿をミュージック・ビデオでさらし、ありのままを語るアメリカのラッパーはグローバル・コミュニティに意義ある貢献をしていると言えるが、同時に非常にアメリカ的現象であるとも言えよう。

4.4 Political Hip-Hop(ポリティカル・ヒップ・ホップ)

80 年代後半から 90 年代前半、アメリカ社会は人種問題的に緊迫していた。1989 年はマイアミでの暴動、1992 年にはロドニー・キングへの警官の暴力が原因でロサンゼルスでの暴動が起った。1990 年、アフリカ系アメリカ人の人口は 31 パーセントに達し

[3]現在の"PV"（promotion video）を指す。本節ではミュージック・ビデオで統一した。
[4] ラップにより対戦をすること。
[5] 陸上競技のオリンピック選手。
[6] モハメド・アリ。

ていた。その頃、ポリティカル・ヒップ・ホップ、と呼ばれる社会批判を行うラップ・ミュージックを披露し活躍したラッパーがいた。例えば、Public Enemy（パブリック・エネミー）である。以下、“Fight the Power”からの引用。

Our freedom of speech is freedom or death
We got to fight the powers that be
Lemme hear you say
Fight the power
（中略）
As the rhythm designed to bounce
What counts is that the rhymes
Designed to fill your mind
Now that you've realized the prides arrived
We got to pump the stuff to make us tough
from the heart
It's a start, a work of art
To revolutionize make a change nothin's strange
People, people we are the same
No we're not the same
Cause we don't know the game
What we need is awareness, we can't get careless
(*Public Enemy Singles N' Remixes 1987-1992.*)

ブラウンが再三唱えた “freedom or death” という句を引用している。事実、ブラウンは収監されているが、パブリック・エネミーは、語ることを封印された公民権運動活動家ブラウンの語りを借りて、恐れることなく、その精神をラップ・ミュージックに再現している。その名の通り、白人社会の敵として立ち上がり、ブラウンやマルコム X が用いたような緊迫した語りで、アフリカ系アメリカ人に革命を訴えている。

4.5 gangsta (ギャングスタ) 、銃賛美、nigga (ニガー)

80 年代半ばから 90 年代に発展を遂げたギャングスタ・ラップは、ゲットーで実際に起る暴力、麻薬、殺人を主題としたもので、同じ境遇に生きる若者には支持されたが、銃賛美、暴力、麻薬を肯定的に語るラップ・ミュージックは、これらを推奨するものと解釈され、恐れられ、拒絶された。

以下、フィラデルフィアの“PSK(Parkside Killers)”というギャングに属していた Schoolly D（スクーリーD）の “P.S.K. What Does It Mean?” からの引用。

PSK, we're makin' that green
People always say,
"What the hell does that mean?"
P for the people who can't understand
How one homeboy became a man
S for the way we scream and shout
One by one I'm knockin' you out
K for the way my DJ kuttin'
Other MC's, man, you ain't sayin' nothin'
Rockin on to the break of dawn
I think, Code Money, your time is on
(*Greatest Hits.*)

スクーリーD は、ブラウンの著書と同名の曲“Die Nigger Die!”を作成し、公民権運動時の語りの中でも挑発的な語りに影響されたラップ・ミュージックを創出している。Nelson George は、次のように述べている。“the Philly home boy channeled something tortured and warped when he laid down “PSK”.”(*Hip Hop America* 45)ギャングスタ・ラップが批判の対象になる理由は、多くのアフリカ系アメリカ人が暮らすゲットーが、ギャングの温床であるためと考えられる。近年、アフリカ系アメリカ人の生活向上のための各種優遇措置により向上された部分もあるが、それは元の水準が低いため、平等の水準には到底達していない。その現状を裏付けるデータもある。2001 年のアメリカの逮捕率について、次のような数字が報告されている。白人男性の逮捕率は 17 人に 1 人であるのに対し、ヒスパニック男性は 6 人に 1 人、アフリカ系アメリカ人男性においては 3 人に 1 人の割合であるという。ウィリアムズは、アフリカ系アメリカ人男性の罪状には、依然として疑問視されるものが多い事実に言及している(Williams 140-44) 。ラップ・ミュージックに見られる、警察バッシングはこの不平等な現状を映し出したものと解釈できる。奴隷制度は、貧困の奴隷、監獄の中の奴隷、ドラッ

グの奴隷、というように、常にアフリカ系アメリカ人の周囲に遍在している、という事実が浮かび上がる。

ラップ・ミュージックの銃賛美については、銃賛美はラッパーであるからするのではなく、銃賛美に至る環境があるためと考えられる。親、保護者不在のため、子供たちにとって頼れるもの、命を守ってくれるものは銃しかない。そのまま成人すれば、ラッパーでなくても銃賛美に至るであろう。彼らは「ありのままを語ること」を実行しているに過ぎず、社会の真実を反映したものであることがわかる。銃賛美に至るプロセスを再考し、ラッパーを含む銃社会そのものを根底から再検討し、改善策へと繋げるべきであろう。ゲットーの悪循環の中に生きるアフリカ系アメリカ人男性は、通学、就職の機会を得ることもなく成人し、ゲットーでスクーリーD の言う "makin' that green" に勤しむより他、選択の余地はない。そのアフリカ系アメリカ人の貧困、麻薬、ギャングといった問題は、過去の遺物であり、ラッパーにより問題提起されている。従って、ギャングスタ・ラップも、「ありのままを語ること」で真相を暴き、改善策を考える機会を与えるものである。

4.6 性差別／人種差別

女性ラッパーは、女性蔑視のラップ・ミュージックに応戦し、「議論」の伝統を継承している。また、男性バッシングの展開、女性謳歌により、ラップ・ミュージックを活性化した。しかし、男性ラッパーによる女性、ゲイ蔑視の表現が、男性ラッパー、あるいは男性リスナーより支持と尊敬を集め、更に差別表現に拍車がかかるという悪循環が見られる。その要因を二点挙げる。ゲットーのアフリカ系アメリカ人男性は、男性としてのプライドを保ち、誇示するには、麻薬売買やピンプをしながら、少女に子供を産ませることしかなかったのではないかということ。また、アフリカ系アメリカ人世帯の、半数以上は世帯主が女性、2/3 近くが未婚の母親ということである (上坂 12-13) 。身近にお互い慈しみ、敬い合う大人の姿を見る機会なく成長すれば、愛、尊敬を知らない成人男性になることは、アフリカ系アメリカ人に限らず当然であり、そのような環境、ゲットーを作り、放置したアメリカの現状がここで浮かび上がる。400 年前に奴隷とされた時に奪われた男性らしさの奪回を、女性差別により試みている、と捉えることができる。

次にラップ・ミュージックの "nigger"（ニガー）[7] について考察する。Jonathan Culler は『文学理論』で、クイアのような差別語の一例として「ニガー」を挙げている (156) 。「ニガー」には、400 年の歴史が凝縮されている。白人による「ニガー」の使用は、アフリカ系アメリカ人への社会的抑圧を遂行する。バトラーのクイア理論同様、浴びせられてきた差別語をあえて使うことで、その意味を変えてしまう試みがラップ・ミュージックにおいても行われていると言えよう。互いに「ニガー」と呼び合い、仲間として認識する意味へと変換させたのだ。Randall Kennedy (ランドール・ケネディ)は、著書 *Nigger* で、クイアのように、"bad"が正反対の "good"の意味で使用される見解を紹介している (146) 。ケネディは、ラッパーや若者の「ニガー」の使用を懸念する反面、ひとつの意味に縛られずに、方向転換された新しい意味として使用される可能性に期待している。一方、Michael Eric Dyson は、ケネディに反して、アフリカ系アメリカ人以外は使用を避けるべき、という見解を示している。「ニガー」という言葉は長い間、白人が使用する言葉の暴力の武器として使用されてきた。

ラッパーは、その武器を取り上げ、攻撃し始めた、と捉えることが可能だ。ブラウン、マルコム X は、白人による暴力を受け止め、投げ返そうとし、物議を醸した。結果、ブラウンは収監され、マルコム X は暗殺された。ラッパーにも同様の抑圧があり、実在する Hip-Hop Cop[8]に犯罪予備軍のように監視されている。暴力、「ニガー」など危険な要因を好んで使うに至ったのは、400 年にわたる差別と、認識論的暴力への抵抗のために他ならない。

---

[7] ラップ・ミュージック、スラングでは "nigga"と表記。

[8] ドキュメンタリー映画、*Black and Blue Legends of Hip-Hop Cop* によると、ラッパーの犯罪歴などのデータを集めた資料には、白人ラッパーEminem は載っていない。

4.7 実利主義的ラップ・ミュージック

また、1990 年代後半から、年月の経過と共に、派手な浪費自慢など、実利主義的ラップ・ミュージックは大きく発展し、批判を受け始める。それに対して、利益だけを目的とする実利主義的ラッパーへの忠告や、その元凶である音楽業界の実情を暴いたラップ・ミュージックも発表された。それは、アフリカ系アメリカ人文化の新たな問題とも言えるが、ラッパーは間違えを犯した場合、応戦されることで悔い改める機会を与えられる。ラッパーは、実利主義をありのままに語り、自分たちの言葉で議論し、主体的に考え、解決する方法を公民権運動活動家から学び、継承している。

4.8 ラップ・ミュージックの今後

2000 年代、ラップ・ミュージックの堕落、衰退がささやかれる一方、Outkast の *Speakerboxxx/The Love Below* は、史上初のラップ・ミュージック 2004 年グラミー賞年間最優秀アルバム賞受賞という快挙を成し遂げる。ラップ・ミュージックが安定した巨大産業へと発展する中、9.11 を経験し、好戦的ブッシュ政権への不信感が充満するアメリカを語ろうと、アフリカン・アメリカン・スタディズの第一人者、コーネル・ウェストは、アルバム *Never Forget : A Journey of Revelations*[9]を作成した。彼はラップ・ミュージックを媒体に、攻撃的かつ挑戦的語りを展開している。キング牧師が自己改革を求めたのに対し、ウェストはアメリカを批判し、社会改革を求める。彼は少年時代にキング牧師のスピーチを実際に聞いている。ウェストは、公民権運動の精神を継承し、講義、講演、音楽活動を通しアメリカ社会を厳しく批判する一方、アフリカ系アメリカ人としての自尊心、自愛心を同胞に訴え、アメリカの、いわゆる正史と、2007 年の現状を語る。

> We came from the bottom ever since they got us
> We been going thru these problems 400 years behind
> And it’s no promise if we gone actually be equal to
> Be honest it’s messed up how they put us in chains
> Kidnapped our language and changed our names from
> When we speak Ebonics then they call it a shame
> They leave us with a couple opinions
> Rob our slang now we looked up again
> How much can our skin take
> We went from slaves to inmates carrying the weight of the 50 states
> Workin your farms Black nannies carrying white babies in they arms
> Black men sacrifice they lifes in your wars
> But you don't never show appreciation here at home
> You treat us so damn wrong you act like you hate my race
> The police station beat us in the streets like a 808 bass
> America when will you defend my case
> You never will cuz your freedom is fake
> I’m only living here cuz I wanna get paid enough
> To round up all my family and shake
> （“America (400 years)” 8）

400 年に及ぶアメリカの奴隷制度、現在に続く抑圧の歴史を語り、アメリカを厳しく批判している。

オバマ氏の大統領当選に伴い、オバマ氏の高いスピーチ能力を通して、アフリカ系アメリカ人の語りは注目を集め、ラッパーの役割も再認識されつつある。Talib Kweli の “Say Something”には、オバマ氏の名前が登場し、Will I Am は、オバマ氏の選挙活動支援曲として、オバマ氏のスピーチをそのまま詩に使用したラップ・ミュージックを作成した。Jay-Z、Nas 他、オバマ氏を認め、支援するラッパーは大勢いた。オバマ氏の活動、ヴィジョン、語りは、公民権運動の精神を継承するものであるからこそ、ラップ・ミュージックになりえたと考える。逆に、オバマ氏の

[9]ジャケットは、1868 年 11 月 1 日にオランダの艦船ダフネ号上で撮影された奴隷たちの写真。(7)この写真の発見は、輸入された奴隷は子供であったという史実を明かにするものとなった。

成功が、ラッパーの存在意義を世に知らせるという相乗効果をもたらした。

5. 結論

ラップ・ミュージックは様々な形に変容を遂げたが、60 年代公民権運動の語りを起源とする「ありのままを語り」、「厳しく批判」するという本質は継承されている。ラップ・ミュージックは、投げかけられたら応戦するという形式により、進化してきた。応戦し、議論に参加するという受け手の姿勢が重要なのである。その中で語られている主張を受けとめ、検証し、意味を考察することで、初めて意義あるものとなる。

「ヒップ・ホップは死んだ」と否定され、言葉遣いが野卑で暴力的と批判されるほど、議論は盛んになる。応戦される限り、議論は続く。Oprah Winfrey のように批判する者も、ラップ・ミュージックを葬るどころか、実際は批判によって議論に参加し、ラップ・ミュージックを活性化する。近年のラップ・ミュージックの堕落をめぐる議論は、その本質の重要性を再認識させる。また、堕落したラップ・ミュージックが蔓延する中、本質に帰還することで、本来の有意義なラップ・ミュージックの継承を試みているラッパーもいる。2007 年発売、Jurassic-5 の *Feedback* はラップ・ミュージックの原点、本質への回帰を、また、2008 年発売、Q-Tip の *The Renaissance* は、ヒップ・ホップの復興をテーマとしたアルバムである。*Rolling Stone* 誌の Ten Artists to Watch in 2008 に選出された新人ラッパーThe Cool Kids も、ラップ・ミュージックを軌道修正するラッパーである。

ラップ・ミュージックは、批判、否定、賛成、などのリアクション、または、更に優れたラップ・ミュージックからの応戦により、本質を保つ。60 年代の公民権運動家はラップ・ミュージックの中に生き永らえ、遍在する。ありのままを語ることが許されない文化もあるという現代世界の状況にあって、60 年代公民権運動の語りを起源とするラップ・ミュージックがグローバル化した意義は大きく、その役割は重要だ。ラップ・ミュージックは、誰もが主体的に生きることが可能であるというメッセージを発信し続ける。

参考資料

引用文献

日本語文献

上坂昇　『キング牧師とマルコム X』　講談社　1994

Culler, Jonathan.　『文学理論』*Literary Theory: A Very Short Introduction.*　荒木栄子・富山太佳夫共訳　岩波書店　2006

藤田正　『RAP』　TOKYO FM 出版　1992

外国語文献

Bockris, Victor.　*Muhammad Ali: In Fighter's Heaven.* New York: Cooper Square Press, 2000.

Brown, H. Rap. (Jamil Abdullah Al-Amin.)　*Die Nigger Die! A Political Autobiography.*　Chicago: Lawrence Hill Books, 2002.

Gates Jr., Henry Louis and Cornel West.　*The African-American Century: How Black Americans Have Shaped Our Country.*　New York: Touchstone, 2002.

George, Nelson.　*Hip Hop America.*　London: Penguin Books, 2005.

Jones, K. Maurice.　*Say It Loud! The Story of Rap Music.*　Brookfield: The Millbrook Press. 1994.

Kennedy, Randall.　*Nigger: The Strange Career of a Troublesome Word.*　New York: Pantheon Books, 2003.

King Jr., Martin Luther.　*I Have a Dream ; Writings and Speeches that Changed the World.*　Ed. James Melvin Washington.　New York: Harper Collins Publishers, 1992.

Light, Alan, et al.　*The Vibe History of Hip Hop.*　Ed. Alan Light.　New York: Three Rivers Press, 1999.

Merriam Webster, incorporated.　The Merriam-Webster Dictionary.　1994.

Williams, Jessica.　*50 Facts That Should Change the World.*　London. Icon Books, 2007.

WEB・CD

Malcolm X.　"The Ballot or the Bullet."　12 April, 1964 in Detroit, MI.　Top 100 American Speeches Online Speech Bank.　Hollywood. CMG Worldwide, Inc, 2001-2007. <http://www.

cmgww.com/historic/malcolm/index.htm>
Bambaataa, Afrika and Soulsonic Force. “The Renegades of Funk.” By Afrika Bambaataa and Soulsonic Force. Tommy Boy, 1984. Lyric: 4 December 2007 <http://www.ratm.net/lyrics/ renegades/ ren.html>
Blow, Kurtis, David Reeves and AJ Scratch. “If I Ruled the World.” By Kurtis Blow. *America*. Mercury Records, 1985. Lyric: 4 December 2007 <http://www.lyricsfreak.com/k/kurtis+blow/if+i+ ruled+the+world_20199115.html>
Brown, Andre, Darryl "D.M.C." McDaniels and Daniel Simmons. “Proud to Be Black.” By Run DMC. *Raising Hell.* Profile, 1986. Lyric: 9 December 2007 <http://lyricwiki.org/Run-D.M.C.:Proud_To_Be_Black">
Fletcher, Ed and Grandmaster Melle Mel. “The Message.” By Grandmaster Flash and the Furious Five. *The Message.* Sugar Hill Records, 1982. Lyric:3 December 2007 <http://www.lyrics freak. com/g/grandmaster+flash/The+message_200622. 25.html.>
Ridenhour, Sadler, Hank Shocklee and Keith Shocklee. “Fight the Power.” By Public Enemy. *Fear of a Black Planet*. Def Jam, 1989. Lyric: *Public Enemy Singles N’ Remixes 1987-1992.* By Public Enemy. Def Jam, 1992.
Tatum. C IRIZ, L. Wither Spoon, T Trotter, R. Fisher. “America (400 years).” By IRIZ, L. Wither Spoon, Black Thought, Rah Digga & Cornel West. *Never Forget : A Journey of Revelations.* By Cornel West & BMWMB. Hidden Beach Recordings, 2007.
Weaver Jr. J.B.. “P.S.K. What Does It Mean?” By Schoolly D. *Greatest Hits.* Jive, 1995.

DVD

Peter Spirer. *Black and Blue Legends of Hip-Hop Cop*. QD3 Entertainment. 2005.

(Received: December 31, 2008)
(Issued in internet Edition: February 8, 2009)